

第4回阿波おどり事業検証有識者会議 議事録

開催日時 平成30年12月21日(金) 午後4時～

開催場所 徳島市中央公民館3階 302会議室

出席者 委員5名(1名欠席) 事務局8名

- 1 開会
- 2 議題(1) 阿波おどり事業の検証について

【豊永委員長】

この有識者会議はそもそも年内を目途に提言書を取りまとめる方向で進めていたが、皆さんの熱心な議論もあり、最終的な提言の取りまとめには、まだ時間がかかる状況である。何より決算書を見ていなかった。今年度の決算書を踏まえて議論を進めることが、大前提であり、今日は決算の説明を細かく聞いて、それを踏まえ次回方向性を決めたいと思う。

【事務局】

資料3 平成30年度阿波おどり実行委員会決算書について説明

【豊永委員長】

資料3の2ページに平成25年度から30年度までの経年の決算状況が記載されているが、平成29年度だけが抜けているのはなぜか。

【事務局】

平成29年度については、昨年10月時点で以前の実行委員会で決算報告が出ていたが、観光協会が途中で破産になり、決算の最終まで出ていないところがある。

平成29年度は資料3の3ページにある事業区分ごとの決算見込みが出ており、これに基づき資料3を作っている。例えば3ページの(3)の平成29年度収支欄、17,865千円という黒字額が決算見込みということで出ているが、2ページにあるような、賃金や報償費などの分類分けが出ていないため、損益計算書は平成28年度までと平成30年度を記載させていただいている。

【豊永委員長】

平成25年から平成28年と今回実行委員会が運営した平成30年と比べると資料が十分でないということか。

【事務局】

例年であれば、観光協会は翌年の5月に観光協会としての決算書を出していた。この

中に阿波おどり事業特別会計の決算も含まれており、その決算書は平成29年度については出来なかったため、3ページにあるような、分類分けしか掘めていない。

【豊永委員長】

裏付ける資料はあったのか。

【事務局】

阿波おどり会館に契約書などが残されていた。ただ、全て書類が揃っているかどうか確認のしようがない。今資料として出させていただいている平成29年度については、昨年の10月時点で公表された、事業別の決算額を参考に記載させていただいている。

【豊永委員長】

それでは、詳しい決算書が出たので、福山委員から専門家のお立場で質問し、事務局から回答していただき、それで理解を深めた上で我々が追加で聞くということにしたと思う。

【福山委員】

今回の決算書が見込み数値ということだが、現在知りうる収入支出、資産はすべて計上済みなのか。

【事務局】

現時点で未払いの分はあるが、今考えられるものについては計上している。

【福山委員】

まだ、見込みということで今後動く見込みのあるものはあるか。

【事務局】

大きいところは、ほぼないと思っている。税の申告で事業税、県民市民税なりが今後確定してくる。その他、会議費用についてはあと何回会議をするかにより変わってくる。

【福山委員】

事業本体の支出などはもうないのか。

【事務局】

その辺りは未払いの分を含めて、一応確定していると考えている。

【豊永委員長】

やはり決算が出るのが遅すぎると思う。8月15日に阿波おどりは終わっている。有識者会議で決算書を基に検討することだったが、決算書がないので先延ばしにしてきた。決算書が出るまでに3カ月は遅過ぎるのではないか。どういう理由があったのか。

【事務局】

事務局の作業で一番時間がかかったのは事業を起案、契約を行い、支払いするまで、例えば、契約書、起案文書、支出命令時は銀行の振込依頼書を全て手作業で行っている。徳島市の仕組みであれば、財務会計システムがあり、リアルタイムで収入、支出が機械的に反映され、集計されてすぐに分析ができる状態になるが、阿波おどり事業については全ての起案がそれぞれ単独で行われており、集計作業が手作業になり、件数が多く手

間がかかった。ただこれは、一回今年行ったので、来年はスムーズにやる方法があるのではないかと考えているところである。決算が遅くなり、委員の皆様にご迷惑をおかけしたと考えております。申し訳ございませんでした。

【豊永委員長】

そういった事情があったにせよ、3ヶ月は遅い。色々事情があったにせよ、普通、株式会社は3ヶ月以内に申告する必要があるのではないか。

【福山委員】

決算日の翌日から2ヶ月が法定の申告書の提出期限になっており、上場企業などの子会社はすぐに親会社に情報出さないといけないため、決算日から2週間以内に親会社に情報を出したりしているが、当然ながら形が出来上がっているというのも事実である。

【豊永委員長】

この決算書は市民に公開するのか。

【事務局】

本日、会議資料ということになるので、ホームページで公表させていただく。

【豊永委員長】

やはり、市が関与して運営した以上は公開しなければ、透明性、客観性が確保されない。以前運営していた団体がおかしいと指摘して、破産までしている。

【福山委員】

第1速報が9月に出たが、仮の決算が3ヶ月経ち出て、これから動く可能性があるということで、これが第2項ということになってくると思うが、照明関係が802万円、これが当初は消耗品費に入っていたのか。

【事務局】

9月段階で、こういった財務諸表の分類が出来ていなかったため、市の会計の制度のような形で3ページにあるような分類でしかできていなかったため、今回初めて財務諸表で分類させていただいた。

【福山委員】

税法基準で資産計上したということによいか。

【事務局】

はい。

【福山委員】

耐用年数も税法基準なのか。

【事務局】

はい。定率法で行っている。

【豊永委員長】

今の話は減価償却費ということで、工具器具、LED照明とそれから備品購入費に一

括で落とす部分の区別はどうなっているのか。

【事務局】

貸借対照表に記載されるものについては、資産計上ができるもので、LED 照明については、栈敷に一体となって設置するものという考えで栈敷の照明部分は工具備品ということで資産計上させていただいている。パイプイスや道路に設置するコーンなど、色々な備品を購入しており、こうした備品は、損益計算書の備品購入費ということで費用化している。

【豊永委員長】

間に挟んで申し訳ないが、委員の皆さんもわからないことがあれば質問していただいたらと思う。

【福山委員】

赤字が2,900万円から動いたという点に関して、長期間に渡って使う物は買った年に全て経費で落とすのではなく、一旦資産に計上して徐々に経費に入れていくので、数字が動くことがある。その適正性については、法人税法基準で行って、客観性が担保されるのであれば問題ないと思う。

【豊永委員長】

例えば、800万円で工具器具備品を買った。これを今年1年ではなく、耐用年数で割り、減価償却費で費用が発生した形で計算していくということか。

【福山委員】

そうである。いわゆる減価償却という計算方式になっている。月割りはしてないのか。

【事務局】

はい。

【福山委員】

決算書の貸借対照表を見ていくと、未払い金が3700万円計上されている。現時点の12月21日時点で未払いということか。

【事務局】

はい。今回、阿波おどり事業については、LED 照明等々を入れて2900万円程度の赤字になっている。実行委員会での運営が初めての年であり、資金的にはゼロからスタートしている。その赤字分が丸々支払えないということになっている。口座の方には現金預金ということで710万程度あるが、一部の業者の方に支払いを待っていただいている状態である。

【福山委員】

財務諸表の内容を順番に見ていきたいと思う。損益計算書のコード648番の委託費について、支出の中で最大であり、2億800万円となっているが、この内容の説明いただきたい。

【事務局】

阿波おどり事業については、実行委員会事務局の方で業務を全て発注しており、栈敷の設置業務、照明電飾等の設置業務、警備業務など全て業務委託という形で発注している。金額が大きい部分だけを資料1の7ページのところに表しており、合計で見ると、1億6000万円程度になる。あとは見物ガイドの製作やホームページの制作など、色々小さい業務委託の方も発生している。

【福山委員】

収入が合計2億3900万円に対して2億800万円が委託費勘定ということで、大半を占めているという状況である。踊り子への報酬はどの勘定科目に入っているのか。

【事務局】

出演料ということになるが、損益計算書で言うと、650番の支払助成金があると思うが、これが出演料になる。

【福山委員】

出演料は総収入に対する比率で5.8%ということになる。

コード637番の手数料はどのような内容になるのか。

【事務局】

手数料については、チケット販売で、業者に支払う手数料大きい金額として出てきているところである。

【福山委員】

損益計算書の614番から655番がいわゆる経費の内容になるが、委員の皆様で気になる点があれば、質問いただけたらと思う。

【豊永委員長】

栈敷の購入についてはどの部分になるのか。

【事務局】

栈敷は市の一般会計で購入しているため、この決算書には含まれていない。

【豊永委員長】

市が購入して、実行委員会が無償で使ったのか。

【事務局】

無償で借りた形になっている。

【豊永委員長】

そうすると先ほどの工具機器備品の802万というのは栈敷に付随している照明機器だけのことなのか。

【事務局】

そうである。

【福山委員】

LEDに関しては劣化して使えなくなっていたため、取り替えをしたということなの

か

【事務局】

当時観光協会は平成28年度に白熱電球からLED照明に換えている。そのLED照明を800万円程の値段で購入したことになる。

【福山委員】

財務諸表として見てきたが、未払い金の支払いの用途はどうなっているのか。

【事務局】

未払い金については実行委員会の方で今後費用負担の在り方を検討していくことになる。そのため、どういう処理をしていくかは決まっていないが、近々実行委員会などが開催される予定で、その中で議論をしていただけたらと考えている。

【豊永委員長】

賃借料はトータルの比率で5.7%と支出の中で多い部類になるが、これは一体なんの賃借料になるのか。

【事務局】

賃借料については、アスティとくしまやあわぎんホールで前夜祭や選抜を行うための、使用料になる。例えば前夜祭であれば、練習日も含めて、アスティとくしまを11日間借りており、この賃借料が大体400万円程度。それからあわぎんホールでも練習日も含めて、18日程度借りており、この賃借料が350万円ほどになる。残りの金額については道路の占用料や公園の占用料などで、公園も屋台で使ったりするので、交通規制区域の中で公園を借りたりしている。こうした経費が賃借料ということで1300万円程度になる。

【豊永委員長】

損益計算書625番の賃金はこういったものか。

【事務局】

625番の賃金については、実行委員会の方で当日のアルバイト等を雇っており、その賃金になる。12日から15日まで演舞場等に張りついていただき、進行の支援や場内の整理を行っていただいた。

【福山委員】

損益計算書の633番備品購入費と634番消耗品費が300万円、400万円と結構な額であるが、いろんな物の寄せ集めだとは思いますが、どのような物が教えていただきたい。

【事務局】

消耗品費については、本当に小さい物の集まりになる。例えばゴミの袋、軍手、救急箱用の薬の補充等で、毎年更新するような物、買い換えた物、用意した物である。

備品購入費については、管財人から購入した物が300万円弱である。270万円程度がLED照明と一緒に破産管財人から購入した物になる。小さい物で言うと、南内町

演舞場におどり橋があり、そこに人工芝を敷いていた。その人工芝がかなり痛んでいた
ので、50万円程で購入した。備品購入費は主にはその2つぐらいになる。

【福山委員】

次に損益計算書（正味財産増減計算書）の推移について、5期比較で平成29年度は
除く分ということで、推移をきっちり見ていく必要がある。経常収益、これがいわゆる
収入になる。事業収益、広告収益、シャトルバス事業収益、受取補助金等、雑収益と5
つに収益を区分しているが、内容について説明いただきたい。

【事務局】

事業収益については、チケット収入で、それぞれ演舞場の入場料収入と選抜阿波おど
り、前夜祭の入場料収入である。次の広告料収入については、有料演舞場に広告看板を
入れており、この広告看板の広告料になる。次のシャトルバス事業収益については、マ
リンピアと吉野川河川敷この二経路でシャトルバスを運行しており、1回1000円の
運賃をいただいている。その運賃収入になる。次の受取補助金等については、県、市の
補助金と協賛収益になる。協賛収益は、企業名を入れたうちわを製作したり、見物ガイ
ドに企業の広告を入れたりした協賛金収益である。次に雑収益については、その他いろ
いろなものがあるが、得に大きいのは臨時駐車場で、駐車料金1回1200円で、学校
や公園5ヶ所の運営を行った。この駐車料金を含めた金額が1,017万円程度の収入
があったことになる。

【福山委員】

事業収益について、この部分が一番減少していることになる。このことについて資料
をいただいていたが、その原因についてもう一度説明いただきたい。

【事務局】

今回チケット収入が大幅に落ちている。曜日配列の問題や夏の猛暑が続いた異常気
象、最終日が雨だった影響もあった。総おどりが中止ということが阿波おどり自体中止
と思われるような報道が出たこと。この辺りが影響したと考えている。

【福山委員】

広告収益については、ほぼ横ばいだが、例年と同じという解釈でよいか。

【事務局】

広告料収入については、演舞場広告料というのがある。演舞場の上の看板については、
業者を選定し企業を回って広告料を取ってきていただいている。平成28年度、平成2
9年度は1社だったが、平成30年度は3社にお願いした。ただ実際には、企業の景気
動向に寄ることもあり、金額的にはそれほど増加しなかった。

【福山委員】

手数料率について1社が15%、その他2社が20%と少し高くなっているが。

【事務局】

今回新しく依頼した2社の見積りでは20%であった。これまでの手数料率よりは

高い手数料にはなったが、実行委員会としては、少しでも多くの広告料が取れば収益になるので、新しく2社に依頼したところである。

【福山委員】

新たな業者を入れてトライしてみたということについては妥当だと思う。

【豊永委員長】

シャトルバス事業収益が例年より130万円落ち込んでいるのは、チケット収入が売れなかったということが原因になるのか。

【福山委員】

連動すると思う。

【事務局】

平成28年年は45,828人、平成29年度は46,914人、平成30年度が34,377人。例年46,000人程度利用されていたのが、今年は34,000人となっている。

【福山委員】

受取補助金等の協賛収益というものはどのようなものになるのか。

【事務局】

協賛収益については、阿波おどりの時にうちわを製作しており、そのうちわに企業名を入れて使っていただくようになっており、うちわに企業名を入れたところから協賛金をいただいている。その他にもチケット会社から協賛金としていただいている。

【福山委員】

平成25年、26年は300万円に満たないが、28年からいきなり700万円に増えており、今年も少し増えている。これは単純に件数が増えているのか。

【事務局】

平成27年以前については、詳細がつかめていないが、平成28年度、30年度との比較は可能である。一番大きいところは、放送会社が放映料ということで、100万円ほどいただけるようになったのが、平成29年度からである。うちわの広告料も近年増えており、今年は164万5,000円ほど協賛金として入っている。平成28年度はうちわの協賛金に対する金額74万8,000円で、約90万円増えている。平成28年から平成30年で放映料とうちわの協賛金で200万円ほど増加となっている。

【福山委員】

県と市の補助金について、県の補助金は長年の間定額なのか。

【事務局】

県・市の補助金については、公益性のある部分が補助対象となっている。具体的には、無料演舞場、にわか連運営、渋滞対策ということでシャトルバス運営、総合案内所運営の4つの経費について、それぞれ県・市の方で算定して補助金を出している。平成25年度から27年度までは30年度と同じ金額が入っている。市の補助金に関しては、観

光協会が事業をして、一定のルールで一定割合を市が補助することとなっていたので、事業費は固定されている。

【福山委員】

阿波おどり事業の内容が変わると補助金が減る可能性があるのか

【事務局】

当然補助金は、かかった事業費以上に補助金を支出することはない。補助の精算をするため、無料演舞場の経費、にわか連の経費等を算定し、補助金を下回れば、当然それが補助金の上限となる。無料演舞場、にわか連には収入はないが、シャトルバスは運賃収入があり、運賃収入と経費を比べて、残った金額が補助金を下回れば、その金額までとなる。

【清水委員】

例えば、平成28年度について、協賛収益・補助金が急激に上がっているが、これは、何かしらの事業が行われたからなのか。

【事務局】

市の補助金について、観光協会では何かしらの事業があり、それに対して補助金が出てことになる。ただ、平成27年以前の明細については把握できていないため、協賛金が上がった理由を把握する術がない。

【豊永委員長】

補助金が平成28年度については、前年度より540万円増額されているが、これは演舞場栈敷のパイプスタンドの改修の必要が生じたから、協議のうえ増額したとなっている。市の補助金が1600万円から2200万円になった。

【福山委員】

雑収入については細々したものが1,000万円ほどあるがこれについてはどうか。

【事務局】

臨時駐車場を今年から実行委員会で運営していた。1,200円の駐車料金をいただいております、その収入が460万円ほどになる。

【福山委員】

ここまで収入面を見てきたが、収益が2億3,900万円で過去5年を比べると、どうしても落ちていると言わざるをえない。これは皆さんの意見として一致するところだと思う。

【豊永委員長】

チケット収入の減少とそれに伴うシャトルバス収益の減少というのが大きい。

【福山委員】

支出面をみていきたいと思う。通信運搬費についてはどのようなものになるのか。

【事務局】

郵便代金が一番大きいものになる。

【福山委員】

減価償却費、302万円について、これは先程の照明機器の減価償却になる。

【豊永委員長】

平成28年度の減価償却費が56円とあるが、例年400万円ほどあるのに、56円の原因はわかるのか。

【事務局】

減価償却が終わったからである。平成28年度までは決算書が出ているので、数字に間違いはないと思う。

【福山委員】

備用品費と消耗品費が増えているが、こういった理由があるのか。

【事務局】

備用品費については、管財人から購入したLED以外のものが270万円ほどある。南内町演舞場に敷いている人工芝が57万円あり合計で320万円となる。消耗品費については、今回実行委員会の方で初めて阿波おどりを開催することになり、ゴミ袋や手袋、小さいものを色々購入して、積み上がったものが420万円ほどになる。

【福山委員】

ここは、来年からは少し減ると思われる。

【事務局】

過去の決算額を見ても、100～200万円ほどの消耗品を買わなければならない。ゴミ袋だけでもかなりの枚数になるが、今年ほどの費用はかからないと考えている。

【豊永委員長】

修繕費はどういったものになるのか。

【事務局】

紺屋町演舞場の移動させる栈敷の車輪が古くなっていたので、その修繕を行った。

【豊永委員長】

来年は必要なくなる費用なのか。

【事務局】

1年限りの費用である。

栈敷も古くなってきているため、毎年何が起こるかわからないが、紺屋町については、一応修繕できたということになる。

【福山委員】

賃借料について、大幅に減少しているが、こういった経緯があるのか。

【事務局】

前夜祭・選抜のアスティ・あわぎんホールの使用料、それから公園の使用料。平成27年以前の数字は把握できないが、28年度と30年度を比較して700万円ほど減少している。その中に栈敷の保管料がある。実行委員会では保管に加えて搬出作業を業

者に依頼しており、棧敷設置業者だけでは、運搬できないため、保管業者にも手伝っていただいている。今年保管料が700万円少々あったが、業務委託ということで、保管料を委託料のところへ計上している。それがなければ、ほぼ同じ額になる。平成28年度までは保管料を賃借料に計上していたが、平成30年度は委託料のところへ計上したため差が出ている。

【福山委員】

租税公課はまだわからない状況なのか。

【事務局】

まだ未確定な部分がある。

【福山委員】

支払助成金について、微減となっている、減少要因はわかるのか。

【事務局】

28年度と30年度で比較すると、これまで前夜祭の出演料は阿波おどり振興協会（以下、「振興協会」という）と徳島県阿波踊り協会（以下、「県協」という）に200万円ずつ支払っていた。今年は振興協会に前夜祭の出演をお願いしなかったため、その分が100万円ほど減少している。今年は県協とゑびす連、うずき連、渦の会に依頼している。今回は県協の200万円とその他3つの団体を人数案分して、105万円ほど支払っており、例年であれば400万円かかったところが、305万円で済んだということなる。

【福山委員】

委託費が金額的に膨大なものになっている。運営に関わるものがまとまっているという状況であるが、賃借料にあった700万円が委託費に含まれているが、28年度と30年度の金額の違いについて説明いただきたい。

【事務局】

平成28年度については、藍場浜の座席スタンドカバーを取り換えており、この金額2,880万円が委託料に含まれている。それを除くと1億9,000万円程度が委託料のベースになる金額だと思っている。今年は棧敷の保管料を700万円ほど計上している。警備業務においても、臨時駐車場の運営を実行委員会で行ったことから、800万円ほど増加した。この2点が委託料の増分になると考えている。

【福山委員】

実質的な増加は警備業務の費用ということで、直接運営することとなった経緯と駐車場運営にかかる収入面の説明いただきたい。

【事務局】

臨時駐車場については、学校と公園合わせて7カ所ある。今までは、体育協会、PTAなどの地元の方が運営していた。学校や公園の市有地を無償で貸しており、それぞれの運営団体で駐車場の収益をとっていただいた。駐車場料金を取っていないが、市有地

を無償で貸し出しをするのはいかなるものかという意見もあったので、今年は適正な使用料が発生するようになった。この話を運営していた団体にしたところ2カ所については運営を引き続き受けていただくことになった。残り5カ所については辞退したが、市内の駐車場不足にも対応していく必要があるため、実行委員会で運営した。臨時駐車場の収入が460万円ほどであり、警備業務等の支出が786万円ほどとなり、収支が赤字になってしまった。

【福山委員】

適正化を図った結果、支出が増えたということか。

【事務局】

そうである。

【豊永委員長】

これも駐車台数が減っているのか。

【事務局】

15日については、雨の影響もあった。

【豊永委員長】

富田中央公園と内町小学校は地元の団体が管理したのか。

【事務局】

これまで、PTAや体育協会、防災協会で開催しており、今年もそういった団体に運営していただいた。実行委員会ではなく、その団体が人を出し、駐車料金を取っている。

【豊永委員長】

その団体の収支はどうなっているのか。

【事務局】

別になっている。

【福山委員】

負担金136万円について、今までなかったがどういったものか。

【事務局】

負担金について、経費の振替をしており、以前の補償費にあたる。栈敷の設置に伴い町内会の方の交通の邪魔になり、営業の支障も出る。これまで、いくつかの町内会に補償金ということで支払ってきた金額になる。町内会と協議をする中で、今年は136万円になった。

【福山委員】

支払手数料が著しく減ってきている。28年度と30年度の比較を説明いただきたい。

【事務局】

支払手数料については、チケット販売業者に支払う手数料である。チケット販売枚数の一定の率をチケット業者に支払っている。これは平成27年と28年が落ちた理由

は平成28年度から委託業者が変更になり、この時に率がかなり落ちた。平成30年度に落ちた理由としてはチケット販売収入に連動しているため、売上が落ち手数料も落ちたことになる。

【福山委員】

いわゆる変動費ということである。

支払利息が今期は、まだ支払っていないのか。

【事務局】

観光協会が借入れに対して支払っていたものであり、実行委員会はどこからも借入れを行っていないためゼロになる。

【豊永委員長】

来年以降もないということなのか。

【事務局】

健全な運営ができるようにしたい。

【福山委員】

雑費は細々したものなのか。

【事務局】

大きいところでは、ボランティアスタッフに当日の弁当を出しており、これが40万円程度かかっている。

【福山委員】

経常費用計が2億6,400万円、収入と差し引きすると2,500万円の赤字という結論になる。過去と比較しても、チケット収入が大きく減少している。

【豊永委員長】

問題は、来年チケット売上がどの程度回復するかである。28年度と同じように回復してくれるとは思いますが未確定なところがある。

【竹中委員】

売上を増やすために最大の注力をしないといけない。理由が曜日であるとか雨天であるなどあったが、本当に曜日に関係あるのかということに疑問がある。過去1987年から2018年まで新聞発表の分をずっと並べたところ2006年からだと2010年を除いて、初日の人出が一番多い。

【豊永委員長】

全般的に初日がトップで15日が落ちているということなのか。

【竹中委員】

そうである。必ずしも曜日に関係あるのかということになる。座席が何枚売れたかというところを本来みるべきだと思うが、そのデータがないので、なんとも言えない。

それともう一つ雨天という理由を上げていたが、チケットの販売、前売りと当日で割合はどれくらいになるのか。

【事務局】

今年、演舞場・前夜祭・選抜合わせて、87,208枚売れており、このうち、当日券は14,454枚、前売りで売れた分が72,754枚。

【竹中委員】

もし、雨天が理由になるのであれば、当日券が売れなかったということか。

【事務局】

そこまでの分析ができていない。

【竹中委員】

雨天を理由にするのであれば、そういった数字も確認していただきたい。データに基づいて確認をする必要があると思う。

【豊永委員長】

当日券が売れなかったのであれば、雨天の影響がある。前売券が売れているのであれば、雨天を理由にできないということである。そういったデータも揃えていただきたいということである。

【竹中委員】

曜日についても、同様だ。

【事務局】

過去の販売実績については資料が残っているので、可能ではないかと考えている。当日販売と前売り販売について、去年以前については資料が残っていない可能性が高い。

【福山委員】

チケット販売状況について、落ち込み具合を割合で見ると、大口旅行代理店が83%、中小旅行代理店が80%、一般販売が90%、主催者販売が60%まで落ちている。この落ち込み具合については、どのように考えているのか。

【事務局】

チケット販売枚数は総じて落ちている。大口・中小旅行代理店に対しての販売については、7月1日からの一般販売開始より前に販売している枚数である。一般販売については、インターネットやコンビニ等で購入できるものになる。この3つについては、全体的に枚数が落ちているという状況である。主催者販売については、実行委員会の方でも、チケットを押さえており、放送関係やクラウドファンディングの返礼品として使用している。去年、7月1日からの一般販売の時に8月12日の初日は、かなりチケットが売れている。7月1日からチケットを売り出した時に買えないという意見もあったので、今年、実行委員会では、主催者枠を意図的に減らした。7月1日に事務局の方に「買えない」という話はあまりなかった。

【福山委員】

主催者枠を減らしたから、他の落ち込みもまじに済んだということか。どのように捉えるのがよいのか。

【事務局】

主催者として押さえていた枚数を減らして、7月1日からコンビニエンスストアやインターネットなりで買える枚数が増えるというのは間違いなく、実行委員会として、一般販売の方に売れる方策を探ったが、結果的には全体的にチケット販売が落ち込んだことになる。

【木村委員】

売れると見込んだけど売れなかった。

【福山委員】

買えないという声があったから買えるようにしたが、あまり買ってもらえなかったという解釈も取れる。

【事務局】

チケットの販売率は日によって変わる。例年12日の1部はすごい売れ行きになっている。そこは買えないという話もあり、主催者枠を充てても12日の1部はどこの演舞場も売り上げは100パーセントだったが、13日から15日があまり売れなかった。

【豊永委員長】

この主催者枠のチケットは前夜祭、選抜もあったのか。

【事務局】

含まれている。

【豊永委員長】

全てのチケットが126,000枚あり、主催者販売は13,000枚ぐらいということか。

【事務局】

そうである。今年は13,725枚であった。

【豊永委員長】

演舞場広告看板について、72.8%しか売れてないということなのか。

【事務局】

演舞場広告看板の売り出し数について、枚数で言うと176枚、これらが全部売れると消費税も入れて37,303千円売れるはずだったが、結果実質収入はその横の2,714万円、枚数で言うと176枚に対して135枚しか売れなかったため、73%の売り上げになったということである。

【豊永委員長】

演舞場広告収益は横ばいだが、例年同じ販売率ぐらいだったのか。

【事務局】

近年では増減はしてないと考えている。毎年、全体の7割は有料演舞場の上に看板があり、3割は空いている状態が続いていると思う。

【豊永委員長】

30年度も今年度に限って増えた部分と減った部分があり、来年以降のどのくらい費用がかかるのかという計算はシュミレーションした方がいいのか。

【福山委員】

絶対かかる費用は確実に見えると思うので、ペイラインがどこにあるのかというところである。ここら辺は組織内で見えていく必要がある。支出を一個一個伺っていくと固定費もある。

【事務局】

今年で言うと、管財人から購入した770万円ほどの照明以外についてはそれほど大きな変動がある物とは考えていない。

【福山委員】

収入が3億円とか維持できれば、毎年きっちりお金が貯まっていくことになると思う。そうであれば、人をいかに集めて収入を上げていくところになると思う。変動費がそれほど増えないので、売り上げに比例してコストが膨らむということはあまりない。

【豊永委員長】

決算状況を踏まえて来年度の経費の支出や赤字の詳細を知らないままに、出演料を出さないとか、連の方からお金を取るとかいうことも検討してきた訳だが、この実態を踏まえて来年どうするかを、もう一度考えなければいけないと思う。今日見て今日決める訳にもいかないため、その辺の方向性についてはまた検討頂いたらと思う。決算書の説明はこれでよろしいか。

【福山委員】

今まで話していたのは決算書出るまでに何も話さないわけにはいかないため、話してきたが、提言書にまとめた訳でもないのでおかしいわけではない。

【豊永委員長】

決算書を分析して来年度どうするかが本筋であり、決算書が9月に出ていれば、これを踏まえて色々と議論ができたが、もう一度議論の練り直しが必要。

【清水委員】

徳島県民が阿波おどりに関して無関心になってきており、今年の入場者数も少なかったのではないかと。徳島市が阿波おどりをやることは分かっていたにも関わらず入ってない。阿波おどりを体験型に変えていってそこで増収入をはかることを考え、興行的になるのはいけないが、誰に聞かれても徳島の踊りはすばらしいと思われるような運営体制を作るべきだと思う。今年是最悪だったことは止むを得ないと思う。この辺りを来年検証したらすばらしい結果が出ると思う。

【豊永委員長】

次に阿波おどり事業検証結果についての中間報告をするというスケジュールになっ

ているので、提言書が案として出ている。

【事務局】

資料1 阿波おどり事業検証結果についての提言書（中間報告：開催概要関係）について説明

【豊永委員長】

実行委員会委員長の遠藤市長に中間報告をすることになっているが、決算書の検討ができてないから内容は無いが開催に関する大枠は報告しておいた方がいいということで、こういう風に前夜祭、選抜も開催する、今年も同じように無料、有料、おどりロードは開催すると、ただ市役所前についてはどうするか案はあると思う。総おどりは、振興協会に参加していただくことは希望しているが、話し合いを行いどのような形で参加するのか。それとともに市役所前の演舞場がチケットの売り上げが今年はかなりひどいので、どのような形で活性化するか。委員の中から出た案もあるが、市民から意見を公募してはどうかについてはどうか。

【清水委員】

それは必要だと思う。市民の方も色々な不満などを持っておられる方がたくさんいると思うので、色々な方に意見やデータを出してもらった方がこよなく市役所前演舞場が好きになってもらえると思う。

【豊永委員長】

どのような意見が出るかわからないが、阿波おどりをよくしたいという人の意見を聞いていくことは、いいことだと思う。

【清水委員】

どのような形で実行委員会の方から市民に対して問いかけるかということも、意見があれば出してあげた方がいいと思う。

【豊永委員長】

資料には市役所前演舞場に限っているが、別にそうでなくてもいいと思う。阿波おどり全体の運営に関してご意見があれば、意見をいただく方が良く思う。

【清水委員】

振興協会とのズレがあり、具体的に色々検討していると思うが、当面の考え方は何かあるのか。時間があまりないと思うので、きれい状態で来年を迎えるためには、どうすればいいかということ伺いたい。

【事務局】

振興協会については、実行委員会の中でも議論は出ているところではある。早く協議をした方がいいと実行委員会の総意であると考えている。有識者会議の中で出た振興協会に対する意見を実行委員会で今後どうしていくかと協議になる。年内を目途に有識者会議から中間報告をいただき、来年の阿波おどりの開催に向けて円滑な運営ができると情報発信を行っていきける。特に大きいのが旅行商品の造成の関係で、2月に入る

と本格的に旅行商品の造成が始まるため、1月中には開催概要の方を決定して頂きたいというのが旅行業界の方からの要望もある。当然、総おどりのことも入ってくると思われるので、今回この提言書を実行委員会に送らせていただき、実行委員会で協議を行い、できる限り早くスケジュールに間に合うように振興協会と協議をするようになると考えている。

【豊永委員長】

これは1月中の方がいいのか。

【木村委員】

早い方がいいと思う。実際のところは1月には計画が固まってスタートするくらいでなければ到底間に合わないと思う。

【清水委員】

報道関係については整理した状態で報道はしてほしい。わからないことがあれば実行委員会に確認し本当に正しい報道をしていただきたい。徳島で4日間の最大のイベントであるため、くれぐれもお願いしたい。

【豊永委員長】

来週の火曜日に実行委員会の委員長の遠藤市長に提言書を出すということになっているが、提言書の内容については議論していく必要がある。特にチケット料金の関係で前夜祭・選抜や有料演舞場の料金の改定について、高くしてもいいという意見があったが、これも決算を見た現段階で提言書に入れてもいいのだろうか。

【竹中委員】

料金をあげれば、またそこだけ報道で取り上げられる。

【豊永委員長】

コンテンツの内容が良いなら料金を上げてもいいと思うが、収入支出の関係で必ず料金改定をしなければいけないのかどうかは決算書を踏まえてもう一度各委員に検討していただいた方がいいのではないかと思う。

【竹中委員】

金額のことについては今の段階では触れない方がいいと思う。

【豊永委員長】

中間報告では削った方がよいか。

【清水委員】

踊る側と第三者的な立場からではズレがあると思う。これは踊る側からすると当然できるだけお金を出さない方がいいという考えだと思う。

【豊永委員長】

料金改定の問題はどこをどういう風に支出を削るかという問題と収入を増やすかという問題で、選抜前・夜祭は有名連が踊ったり、天候に関わらず売れている。だからそこからもうちょっと取りたいという気持ちが出たと思う。

【清水委員】

有名連と一般連の区別というのは、組織に属しているところが有名連だというのは理解しているが、有名連に準ずる様な上手い連が事実ある。

【豊永委員長】

振興協会を出た連はどうなっているのか。

【清水委員】

もちろん有名連である。

【豊永委員長】

有名であるが団体に属していないのではないか。

【清水委員】

有名連の定義とは何なのか、非常にややこしい。組織に入っていれば、極端に言えば下手でも有名連になるのか、見た人はどう思うのか。例えば一般の人に投票してもらい上手いというのであれば、別だと思う。

【豊永委員長】

料金改定についてはどうするか。

【清水委員】

連からお金を取るということに関係してくる。

【竹中委員】

1, 0 0 0 円値上げしたとして、いくら収入が増えるのか即答できない。

【豊永委員長】

一定の料金改定が可能であるという書き方の提言であるが、それを今入れるべきか、入れない方がいいという意見もある。もし入れるべきではないという意見があれば、今後についても有識者会議は多数決で決める意志決定機関ではないので両論併記という形でもいいと思う。

【竹中委員】

選抜と前夜祭の販売率はどれくらいなのか。

【事務局】

選抜阿波おどりのケット販売率は今年が92.2%で去年が98.2%。前夜祭は今年が74.4%で去年が83.5%。

【竹中委員】

その販売率を維持できるかどうかということが問題である。入場者の現状把握が出来ていないのに料金改定を言えるのか。

【豊永委員長】

だから、今の時点では入れるべきではないと。

【竹中委員】

例えば、前夜祭にしても県内の人が買っているのか県外の人を買っているのか、ある

いは旅行代理店を通して買っているのか個人で買っているのかというそのルートによってもどのように動くかというのか、値段を上げることによってどんなに動くかっていうのが違って来る。

【木村委員】

阿波おどり全体で収支を改善して、お金が残ればこういう目的に使うから、前夜祭等のパフォーマンスが高いところはより収入源を増やすという考え方で出してもいいが、ただここだけをとらえて高い安いという議論になると、おかしなことになる。

【豊永委員長】

決算書の検討が詰めてできてない状態で、トータルで考えるべきことであり、あくまで収入を増やして支出をどう削減するか。固定経費が多いのでなかなか削減は難しいと思うが、その辺はどうするという問題があるため、料金改定の部分は削ることにした方がいいか。

【清水委員】

一番は見た方がお金を出して良かった、見た価値があるなという価値観だと思う。だから、踊る側にも責任があると思う。料金改定を先行するだけでなく、踊る側ももっと勉強して技術向上していかなければならないと思う。一般の方の声を聞くと、どここの連も同じと言われる。それでは進化がないと思うので、技術を磨くことによって、価格が上がっていくのは仕方ないと認めてくれると思う。

【豊永委員長】

振興協会の総おどり強行について、事故がなかったから良かったものの遺憾といわざるを得ないとのコメントがあるが、これについてはどうか。

【竹中委員】

振興協会の意見も何も聞かずに、提言に入れてもいいのかと思った。提言に入れるとしたらもっと前向きな意見を入れるべきだと思う。

【豊永委員長】

双方に経緯があり、実行委員会側にも対話が十分でなかったところがある。客観的に両方から意見を聞いてはいないが、遺憾と言わざるを得ないという言い方をしたが、適当ではないか。

【清水委員】

総おどりだけが持ち上げられて他の演舞場は入ってないということだが、実は他の演舞場も無料演舞場に限らず、すごく人が来ている。これはお互いが話し合いをした方がいいが、話し合いをどうするかが問題になる。

【豊永委員長】

総おどりを強行したのもいけないが、実行委員会の方も対話が不十分だったので、協議の必要であるという流れでよいか。

【福山委員】

一番重要なのは融和することだと思うので、極力責めるような文言は入れるべきではないかと思う。

【豊永委員長】

そこはどうか直したらいいか。

【清水委員】

実行委員会も大変だというのはわかるが、協議をしてもらわないと困るというのは誰しもが考えることである。

【豊永委員長】

事務局から話は聞いているが、両方の話を聞いていない。

【清水委員】

お互いに、譲るところは譲って聞くところは聞いてもらうような話し合いをしてもらう。そのためには第三者の人が入って、双方の意見を聞きながらという形にしてもいいのではないかと思う。

【豊永委員長】

ただ言い分はあるにせよ本来踊るべきところ以外で踊ったということはいいというわけにはいかない。

【清水委員】

実行委員会が決めたことは守るのは大前提であり、それは理解していただく。

【豊永委員長】

振興協会は嫌がるかもしれないが、あの雑踏を見ると、危なかったと思う。また同じことをしないために話し合っ、踊り場で踊ってほしいということを言いたい。

【清水委員】

具体的に実行委員会として当面振興協会との協議はしないのか。

【事務局】

この有識者会議での議論、意見等を踏まえて、実行委員会を開催して議論していく予定である。時間が迫ってきているのも十分承知しており、しっかりと対応していきたいと思う。

【豊永委員長】

残念ながら遺憾と言わざるを得ないとなると客観的になるので、残念と感じているなどにしてはどうか。それでも抵抗があるだろうか。

【福山委員】

人情的な単語を使った方がいいと思う。遺憾と言うのは形式的な言葉である。

【豊永委員長】

残念と感じているにすると言い回しが弱くなると思うが、竹中委員はそれでも抵抗あるか。

【竹中委員】

まだ少し抵抗がある。

【豊永委員長】

気持ちとしては、両方ともが話し合っ、こんなことが起こらないようにしてほしいということである。そういう書き方にするのはどうか。

【竹中委員】

少し考えたいと思う。

【豊永委員長】

双方言い分はあると思うが、ここでは総おどりの強行自体が、実行委員会側としての表現で書かれている。

【清水委員】

今回は混乱を招いたため、阿波おどり振興協会14連による総おどりという名称にした方が、今後、問題が起きないと思う。

【豊永委員長】

名称としては、総おどりではなくて振興協会総おどりにするという。

【清水委員】

一般のファンからすると、県外の方は混乱をする。おどり関係者でも同じことを言っていた。実行委員会と振興協会との問題だけではない。根を断ち切るとするのは非常に難しいと思うが、打開していかなければ、前へ進まない。

【豊永委員長】

盛り上げていくためには、振興協会14連の協力が必要である。内部的な対立構造がある状態で、全国のマスコミにそういう面で注目されるというのは、どうかと思う。

【清水委員】

振興協会も円満な解決ができるような方向で考えているとは思。

【豊永委員長】

開催日について、木金土日にするというのは鳴門市や県内各地の阿波おどりにまで影響するが、有識者会議で意見を言ってもいいの。協議をしたらいいと思うが、収入が少なくなっているから開催日変更してと言うのはどうか。

【清水委員】

この話は、収入の関係からこういう形になったが、これも賛否両論あると思う。

【豊永委員長】

日程調整ができた場合は、次のような日程も考えられるという表現にするのがよいか。

【清水委員】

踊る側からすると最終日が日曜日になるというのは、気分的に盛り上がる。連員にも仕事がある人がたくさんいる。お客さんがいてくれて、踊る側はなんぼのもの。客がいなくても踊るが、いたことに越したことは無い。

【豊永委員長】

そういった関係もあるため、前回は来年度からという意見だったが、実行委員会として協議ができたという報告でよいか。

【竹中委員】

曜日開催に変更したとして、本当に客が増えるのか。

【清水委員】

これも一般市民から意見を聞くことも大事かと思う。

【豊永委員長】

「考えられる」から「検討も必要である」ではどうか。

【清水委員】

開催時間について、19時～21時半までとなっているが、1部制にした場合、18時から仮にやるとしても、1部制だけで20時まで通しでやる方がお客さんはずっと盛り上がる。2部はお客さんの入りが悪い。開催時間を17時30分からの繰り上げてはどうか。

【豊永委員長】

18時から20時で1部制にする。その後は無料にするのか。

【清水委員】

できれば、その様にした方が残された時間に、無料なら行こうかなと思うお客さんもいるのではないか。

【豊永委員長】

そうすれば開始時間を19時から21時半というのを、18時から21時半までとするのでよいか。

【竹中委員】

これも色々なケースを考えて表現すればいいのではないか。

【豊永委員長】

1部制にして開催時間を柔軟に検討する、という表現でいいのではないか。1部制に変更して開催時間の変更も含め、2～3時間経過後は無料にするという案でよいか。

【清水委員】

全体的に言うと17時30分スタートの2部制でどうしてもやると言うのであれば、19時30分で切って、19時30分から20時までの間に入れ替えを行い、20時から2部のスタートにする。

【豊永委員長】

スタートを早めるということか。

【清水委員】

なぜかと言うと、2部のお客さんの入りが全般的に悪いということなので、それを打開するためには、半時間というのはすごく大きいと思う。

【豊永委員長】

市役所前だけでなく、全般的になのか。

【清水委員】

全般的である。

【豊永委員長】

2部制の開始時間をいつにするのか。

【清水委員】

17時30分から19時30分まで1部、19時30分から20時の間を入れ替えにする。20時から2部の開始で22時に終了。踊る側からすると20時ってというのが非常に盛り上がった時間帯である。2部制を撤廃してもらい1部制の通しでやっていただきたいが、お金のことがあるので、止むを得ないのかと。20時半からになるとやめようかなという人がたくさんいる。

【豊永委員長】

そういった提言を入れるのであれば、市役所前だけに限った話ではないということか。

【清水委員】

開始時間を早めるのは市役所前に限った話ではない。1部制にするということは、市役所前だけではある。

【竹中委員】

この入れ替え制というのが踊り手側にも問題ないのか。

【竹中委員】

1部の終了時点は満席なのか。

【清水委員】

観光客が帰ってしまう場合がある。

踊り子からすると、入れ替えをすると、終わったような気がする。しかも踊る時間もったいない。

【竹中委員】

1部と2部の間の30分を15分に変更して、その間は1部2部どちらの入場券でも座っても良いという仕組みにできないのか。

【豊永委員長】

トラブルになるのではないか。

【竹中委員】

先に座っている人優先ではどうか。

指定席なので、席が違っていたらどいてくださいというのは言える。

【豊永委員長】

チケットが特定されている訳ではないのか。

【竹中委員】

特定されている。自由席は別であるが。

【事務局】

C席以外の指定席は、イスに番号振っている。

【竹中委員】

自由席の場合は、入れ替えしなければならないが、指定席の場合は可能。

【豊永委員長】

色々議論はあるが、1部制か2部制かは早く決める必要がある。市役所前をどうするかは別として、2部制はしないといけない。こういった議論があったということは、提言に含めてもいいとは思うが。

【清水委員】

ずっと同じことをしているから、市役所前があれだけ入りが悪いということである。仮に有識者会議の意見が取り入れられてとして、2、3年後にこれではだめとなれば、その時また変えていくという風な弾力性を持ってもらいたい。インターネットや市役所に来た時に意見を書いてもらうなどの方法で色々な意見が反映されるような阿波おどりの組織になってもらいたい。

【豊永委員長】

1部は有料で後半は無料で、2部制だけ後半は無料ということか。

【清水委員】

市役所前は基本的に1部制にして、例えば9時半以降からは無料というのはどうか。

【豊永委員長】

1部制に変更するというのを1部の開催時間を2、3時間として、それで二部9時半以降は無料開放するという整理にしたいと思う。

振興協会との関係についてはどうするか

【竹中委員】

案ではあるが、安全で安心な阿波おどりを開催するにあたって、ここは必要になる。その後は、「こうしたこと」からは消して、一方のところを「しかし」と置いて、しかし阿波おどり実行委員会と阿波おどり振興協会との対話が十分でなかったことは否めない。

【豊永委員長】

しかし、阿波おどり振興協会が「総おどり」を強行しなければならなかった過程においてということは残すのか。

私の考えでは、うえの2行を削って振興協会が「総おどり」を強行しなければならなかった過程において、主催者である阿波おどり実行委員会と阿波おどり振興協会との対話不十分であったことは否めません。阿波おどりを安全かつ盛況に開催するため

には、全ての踊り団体の協力が必要なので、来年度以降、こうした事態が発生しないよう主催者として取り組む必要があり、さらにできる限り早期に阿波おどり振興協会との協議の場を設ける必要があると考えますというのはいかがでしょうか。

【竹中委員】

主旨はそのとおりだが、本当は振興協会との協議というのをもっと頭にもってきてほしい。

【豊永委員長】

第一段落の阿波おどりは云々というのは色々沢山の方にご協力いただいて、交通規制や消防など多数の人がこういう形で安全確保に取り組んでいるということで安全、安心をすべての人が協力してくれるようになる。今回はそういうことができてなかったという流れだったため、ここは遺憾と言わざるを得ませんと言うのを削ると、阿波おどり振興協会が「総おどり」を強行しなければならなかった過程において、話し合いが十分でなかった。だから、で安全かつすべてのおどり団体の協力が必要である。来年度以降、こうした事態が発生しないよう主催者として取り組む必要があり、さらにできる限り早期に阿波おどり振興協会と協議の場を設ける必要がありますと、こうすると柔らかくなるが、これでどうか。

【福山委員】

強行せざるを得なかったという点でニュートラルになっている。

【豊永委員長】

火曜日に実行委員長の遠藤市長にお渡しすることになっているが、決算書の検討が十分できていない。2ヶ月前に決算書が手に入っていればもっと議論できていた。

【福山委員】

どちらにしても早期に話し合いを始めないといけなかったということで、過程は重要ではない。

【事務局】

資料2 議論の取りまとめに向けて説明

【豊永委員長】

実行委員会のあり方というのは、全面的に民間委託するのかそれとも来年度も徳島市が入った形での実行委員会が主体となってやるのかというところで、大きく変わってくる。来年度から民間委託は可能なのか。

【事務局】

今年1年実行委員会で運営を行ったので、事業を仕様書に落とし込んで公募をかけていくことはできるのではないかと考えている。実際にそれが本当に受けられるかどうかは、最終的には実行委員会の中で決めていくことにはなる。手法としては民間委託という議論をいただいている中で、スキームとしては書き上げることはできると考えている。

【豊永委員長】

提言書では、来年やるのかどうかというちょっとそこが明確ではないが、それはおそらく両論併記みたいな形になるかと思う。来年すぐやるべきだということと、来年は今年度の状況を踏まえて従前どおりの問題点を改善してその上でやるという考え方もあるかと思う。

【事務局】

表現として「早ければ」や「可能であれば」などの表記も可能である。両論併記も可能かと思う。

【豊永委員長】

今日の決算書の内容を踏まえて今まで議論した後に最終的な一定の結論を出すか、この内容は提言書の中間報告には入っていない。それは最終的な話し合いの場で再度議論いただいてもいいかと思う。

個人的にももし来年も今年と似た形で運営するのであれば、南越谷方式の実行委員会で作成し、そこに実務的な方に入っていただいて、今回みたいな阿波おどり実行委員会という8団体だけでなく、実務的に動ける人がついて、さらにつめていくというのがいいと思う。提言書に記載のある評価委員会と事務を再度評価するというシステムも必要である。もし民間委託するとしても、民間事業者が、どういう風に運営しているのかを随時、透明性、客観性が明らかになるように、求めたらすぐ報告するような形で、それをしない場合には解約するというような条項で委託することも考えていく必要がある。評価委員会は事業の検証提言を行う。それはおそらく民間に委託した場合にはそのような形になるかと思う。それはおそらく有識者会議ではない。有識者会議での提言を実行したことをまた有識者会議で評価するのもおかしい話になる。

その他に意見はないか。

【竹中委員】

中間報告の提言内容の「チケット販売率の減少は小さく、例年高い販売率を維持していることから、これまで通り開催する」というのは、評価しているように感じるがこのままでよいのか。

【事務局】

チケット販売率は低迷したが、前夜祭と選抜阿波おどりのチケット販売率は他と比較して減少率が小さく、選抜阿波おどりは高い販売率を維持しているという表現である。

【豊永委員長】

販売率は下がっているが、前夜祭と選抜おどりは別という意味ではないのか。

【事務局】

そうである。

【竹中委員】

減少率が小さくと言っても、下がっているのは事実である。販売率が小さく下がっても、今までのやり方で開催するのでよいというのはどうかと思う。常に新しいものがあるということを見せていかなければ、リピーターに繋がらないと思う。今までどおりに開催したらいいという表現のように感じる。

【豊永委員長】

前夜祭については、振興協会を含めた演出方法を検討する必要がある。前夜祭だけでなく、選抜おどりもそのままがいいのかというと、それは違うのではないかということである。

【竹中委員】

開催するということは、その通りだと思う。

【豊永委員長】

開催はするが、演出方法について、改善するよう努めるべきであると。その提言を入れるようにする。

【福山委員】

発言の訂正で、先ほど軽々しく収入が3億円あればと言ったが、これができないから苦労しているのである。その部分は訂正したい。軽々しく言い過ぎたと思う。

【豊永委員長】

収入が3億円になる保証がない。3億円になればいいという考えはできるが、なかなかそこまで上げられるかはわからない。

【竹中委員】

そのために色々な演出を抜本的に考える必要があると思う。今までそれをやってこなかった。

【豊永委員長】

先ほどのところは「なお、改善の必要もあります」という提言内容にしたいと思う。

【清水委員】

これからの阿波おどりを発展していくために、今までのものを守りながら、新しいものにチャレンジしていくという点では、有名連という概要について事務局に詳しく調べていただき、将来ある学生、特に四国大学や文理大学は非常に技術が高度である。彼らにもそういった夢を与えてあげるといことも、これから阿波おどりの発展に繋がると思う。

【豊永委員長】

清水委員の意見は、四国大学や文理大学などの洗練されているところは、有名連と同様に張り付けを行うということか。今の張り付けはどうなっているのか。

【事務局】

優先連の張り付けについては、まず有名連を30分ごとの張り付けを行う。その間を優先連ということで受付を行う。タレントをつれた企業連、有名連のついた企業連、県

外で活躍されている連などを張り付けていく。今はタレントを連れている連や有名連と一緒に連以外は受付をしていない状態である。

【豊永委員長】

清水委員としては来年の張り付けの時に、大学連でも優秀なところは、張り付けを優先連と同じに格上げしてもいいのではないかという意見である。

【清水委員】

実際のところ、有名連と言われている連よりも学生連が上手い。そういったところを認めるのも、今後の阿波おどり発展に繋がると思う。

【豊永委員長】

そういった意見があったということで、最終的な提言書には含めるのでよいと思う。

【事務局】

一点だけ確認で、別紙の2ページの鳴門市の阿波おどり、徳島市の阿波おどり、県内各地の阿波おどりということで、3点列記しているが、これは削除するのでよいか。

【豊永委員長】

徳島市だけにするのはよいのではないか。

【事務局】

徳島市だけでよろしいか。

【竹中委員】

案としては一応残しておくべきなのか。

【豊永委員長】

徳島市は入れるが、その他の祭りまでの日程調整をするっていうのはどうか。

【福山委員】

周辺自治体に協力を依頼していくべきだというような提言内容はどうか。

【竹中委員】

徳島市の阿波おどりを8月の第2週の木曜から日曜日とあるが、もし、曜日を定めるのであれば、第2週の木曜を含む木金土日とした方がいいと思う。

【豊永委員長】

第2週が早すぎる場合があるからなのか。

【竹中委員】

第2週の木曜日から日曜日としたら、一番早い時で8日から11日。一番遅い時だったら14日から17日である。

【豊永委員長】

第2週を含む方がいいのかもしれない。

【竹中委員】

第2週の木曜を含めると早い時が6日から9日。一番遅いときが12日から15日である。

【豊永委員長】

そっちの方がいいと思うが、どうか。

【竹中委員】

だけど、動かすのがいいかどうかの判断は別である。

【豊永委員長】

提言としては第2週を含むでよいか。

【竹中委員】

第2週の土曜日を含むがよい。

【豊永委員長】

第2週もいいが、遅い時は第三週でもいいって話で、次のような日程も検討する必要がある。徳島市の阿波おどりについては8月の第二週の土日を含む木曜日から日曜日とする。

【竹中委員】

土曜日が第二週目で、木曜日は第一週目の可能性がある。

【豊永委員長】

第二週の土曜日を含む木曜日から日曜日。わかりづらいかもしれない。

【竹中委員】

表現の仕方はまた後で調整するのでよいと思う。

【豊永委員長】

鳴門市と県内各地は削ることとする。

【豊永委員長】

将来的に県内の阿波おどり主催団体との協議でとする。

それと臨時駐車場の運営を行ったことにより800万円の経費負担が発生すると記載があるが、実際経費負担は360万円でなかったのか。

【事務局】

赤字額が300万円ほどになる。支出の合計が786万9千円ということで、800万円程度の支出がある。

【豊永委員長】

これは収入があるから、経費負担が発生したというより、経費負担が増加したと
のではないか。

【事務局】

中間報告に記載しているのは、表1で言うと、支出のところ、差引イーアのところを見ていただくと、1,300万円ほど増えている。経費で言うと臨時駐車場を運営で800万円ほど増え、更に減価償却費が300万円ぐらい増えている。合計で1,300万円増えた理由の1,100万円が臨時駐車場の800万円と300万円となる説明をしている。

【豊永委員長】

備品を買ったのも赤字になるのではないか。

【事務局】

300万円分ほどのLED照明以外の支出も含まれており、それで1,338万5千円分ほどの合計の支出になる。

【豊永委員長】

トータルでは2,500万円ほどの赤字だったと。

【事務局】

はい、2,500万円の赤字である。

【豊永委員長】

それについて、支出が増加した原因としては臨時駐車場の運営と減価償却費と備品購入費があったということなのか。

【福山委員】

初回の開催なので色々と購入した物がある。

【豊永委員長】

減価償却の300万円の記載もあるが、この部分だけ記載すると赤字の原因がみえないになる。

【福山委員】

今年の阿波おどり事業は支出面で、新たに5つの臨時駐車場の運営を行ったことにより、800万円の経費があるとあるが、800万円の経費を削るべきではないか。そもそもなぜ警備しなければならなかった。検討するというところでどうか。

【豊永委員長】

減った部分もあるが、増えた分もあり、最終的にはこういう数字になったということではよいか。

【事務局】

そうである。当然増減はあるので、大きく経費が増えたもので去年まではなく、今年発生した経費は全体増加分にあたるので、臨時駐車場の運営が増えたことと、減価償却費が増加していることを純増分に入れさせていただいている。

【豊永委員長】

この2つだけピックアップするのはどうか。備用品費も350万円ほど新たに発生している。消耗品費も200万円ほど増えている。

【福山委員】

主催団体の変更により、イニシャルコストがいくらかかかったというのも入れておいた方がよいかと思う。だが、来期以降は特に影響が出ないというような記載でいいのではないか。あと、項目を書くのと同時に原因もコメントを添えるべきかと思う。5つの臨時駐車場の運営を行う必要が出てきた経緯と結果と減価償却費についても。

【豊永委員長】

原因を記載していなければ、この2つだけではわからないかもしれない。市長に提言書を渡したときに、我々は決算書を見ているのでわかるが、あんまり詳しいことご存じでないかもしれない。そのため、原因等を見てわかるように記載していただきたいと思う。

【竹中委員】

提言書の700連と記載があるが、延べで700連なのか。

【事務局】

延べ700連である。

【豊永委員長】

延べ800連という話があったのではないか。

【事務局】

800連については演舞場以外で踊っている連も入れて800連ぐらいになるかと思う。

【豊永委員長】

延べ約何連という記載にした方がよい。

【竹中委員】

100万人を超える来場者というのは、これでいいのか。

【豊永委員長】

他の祭りと同様であるため、これはそのままとするのでよいと思う。

【竹中委員】

提言書の3ページで今回有料演舞場における演出方法は来場者からは好評をいただいているとも聞いているというのは、踊る側と見る側の確認ができないが、そのままでもよいのか。

【清水委員】

感激する人もいると思うし、また同じことやっていると感じる人もいると思う。

【豊永委員長】

どこから好評をいただいているのか。

【事務局】

確かこの会議の1回目の時にどなたか委員が言われていた気がするのでこう書かせていただいた。それから、実行委員会の諮問機関である運営協議会の中でも、こうした意見が、確かホテル関係の委員からお伺いした。

【竹中委員】

総おどりのところだけ他と比べて細かく記載されている気がするが。

【福山委員】

市政が介入していないかということか。

【豊永委員長】

振興協会の総おどりのメリット、デメリットという点で議事録を見るとこのようなことを言っている委員の人がいる。

【清水委員】

総おどりについて、確かにすごいとは思いますが、ただ、踊る側からすると、前列の何名かがいて、たくさん的人数がいて、寄り添わないといけない感じである。踊りというのは一定の間隔をあけて踊るものだが、一つの団体で踊っているような、それも阿波おどりだとは思いますが。そこに魅力を感じるというのが、何だろうなと時々疑問を感じることもある。よく言われているのは、最初の何人かは見えるが、後ろの人は笠しか見えないとか。

【豊永委員長】

総おどりはいい面もあるが、ここに書いてあるような欠点があるので、今年度は分割して、総おどりではなく、4つの演舞場に分けてやったが中々上手くいかなかった結果が残っている。

【清水委員】

ただあれだけの連が千人余ってドッと踊り込んでくる。それはやっぱり魅力はあると思う。他にないものをやるから、たぶんお客さんはそれを見にが来ていると思う。でもそれは一つの演出方法だとは思いますが。

【豊永委員長】

そういった面もあるが、見れるお客さんと見れないお客さんがいて、同じ料金なのに、南内町は総おどりがあり、それ以外の演舞場はないという非難もあった。細かく書いているが、こういった魅力的な側面もあるから、協力してくださいよというニュアンスなのではないか。

【福山委員】

お願いするという形で。

【豊永委員長】

そうである。そのためには振興協会との関係で対話ができなかったから、そういったことがないようにではなく、魅力あるコンテンツについては、それなりの協力をしていただくということを記載しておく必要がある。

【竹中委員】

その通りである。

【豊永委員長】

色々と批判、意見はあるだろうと思うが、議論は大体尽きたように思う。

【福山委員】

中間報告の日がきられたのは、どういう経緯があったのか。

【豊永委員長】

今回は中間報告をすることになったのは、決まっている部分や開催の大枠が決まっていなと、1月中旬以降にすると、中々予定どおり開催するのかが間に合わないのではないかという話になったためである。

【福山委員】

中間報告の内容はそういったところに絞ってもいいということか。

【豊永委員長】

そういうところに絞っているとは思う。開催概要だけなので、出演料を出さないとか連からお金もらうとか一切入っていない。それは決算の詳細がわかってない段階で、赤字だという前提で1,900万円が2,900万円の赤字だったという数字を根拠に話したら全体像がわかったのが今回初めてである。それ以前に開催概要だけは早くしていただきたいということで、ここに記載しているのは赤字だったという事実と、開催概要について選抜、前夜祭、無料演舞場、おどりロード、おどり広場を例年どおり開催する。それと、振興協会と早く話し合いをしてくださいというこの3点である。

決算状況が細かくチェックできていない状態で各連の参加者に求めるっていうことは、恒常的に赤字になるっていう前提で話していたが、より決算項目を見直して、その上でどういう負担をしていただくかという話をした方がいいのではないかと思う。

【豊永委員長】

以上を持って、第4回阿波おどり事業検証有識者会議を終了する。